

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 1階 さくら		
所在地	〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年12月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との日常生活の中、各利用者様らしさを第一に個人を尊重し、安全かつ豊かな生活を送れるように、日々のレクリエーションに力を入れています。レクリエーション以外でも、利用者様とコミュニケーションを図り、利用者様にとってのニーズや、改善点を新たに発見し、より良い支援が出来るように心がけています。また、外の空気に触れたり、散歩や歩行練習、筋力体操などを毎日行い、利用者様の筋力維持に努めています。ホールには季節に応じた利用者様と製作した壁画などを飾り、季節感を共有したり、切り絵、折り紙、俳句、書道作品制作など色んな活動に職員共々挑戦したりと、アットホームな環境で充実した日々を送ることが出来ます。ボランティアの方々の協力による音楽コンサートや人形劇、生け花教室などの行事も企画し、明るく楽しい生活を御提供しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は自由な暮らしやその人らしい日常生活の提供などの思いを盛り込み作成した理念の下、個々の希望や身体状況に応じて、外出を楽しんだり、クリスマス等の季節感のある作品作りや趣味の継続など、その人らしく豊かな暮らしが提供できるよう努めています。また地域の小学校で認知症の講座を開いたり、地蔵盆の準備等にも参加し事業所への理解を図り、生け花や音楽コンサートなどのボランティアの来訪や消防訓練に町内会長の参加を得る等、地域との相互交流を活発に行っています。職員間は明るい雰囲気の中で、コミュニケーションをよく取り、利用者の尊厳を守り医療との連携を図りながら看取り支援にも取り組み、より良いケアとなるよう向上心を持ち日々の支援に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援を心掛けている。一人一人その人らしい暮らしが出来る様に職員が関わりを持つ。また、地域の行事等にも進んで参加している。	職員との話し合いを経て決定した理念を掲示し、入職時の新人研修や定期的に会議等で職員間で話し合い、理念に沿った支援が出来ているか確認をしています。会議では理念が現状にあっているかの意見も出ており見直しが必要か話し合うこともあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い日には、積極的に外へ出て散歩をして、近所の方々とコミュニケーションを図っている。正月には皆で初詣へ行き、秋には神社にお神酒を奉納し、ホームの近くを通る神輿を皆で観たりしている。	町内会に加入し、回覧板や地域の職員から情報をもらって、地藏盆のちょうちん作りに参加したり、小学生の福祉課外授業の受け入れやボランティアに生け花教室を開いてもらい交流しています。また地域の児童館での徘徊模擬訓練にも事業所として参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の福祉課外授業に当施設で小学生を迎え、交流の場を提供したり、定期的に関催される地域包括支援センター主催の認知症サポート事業にも参加させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の方が、毎回消防訓練に参加して下さり、相談等にもアドバイスをいただいている。	2か月に1度、家族代表、地域包括支援センター職員等の参加の下、現在は土曜日に固定し全家族に案内を送り開催しています。活動報告や行事予定の連絡を行い、事業所の広報誌やヒヤリハットの記録を提示して意見交換し事業所の畑へのアドバイスなどをもらっています。意見を基に改善されたこと等の伝達を行っています。	地域ケア会議で民生委員に運営推進会議への参加を呼びかけられていますので、より多くの方の参加に繋がるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の支援課が若年性認知症の方の入所希望を支援されていて、空き状況を伝えたりしている。	事業所の手続き等で区役所へ出向いたり、運営上の不明点等を区の担当へ確認をすることで連携を図っています。また地域のケア会議に区の職員の参加もあり、意見交換をしています。区から研修の案内が届いた際は、出来る限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関扉の施錠をしない方針は今まで通り変わらずに継続している。利用者様の尊厳を大切に、いかなる場合でも身体拘束をせず、転倒等の事故を防ぐためにしっかりと見守り等を行っている。	身体拘束防止の研修に職員が参加し、事業所で伝達し周知しています。新人職員は身体拘束のマニュアルを基に研修をして知識を身に付けています。日中は施錠せず、外出したい様子の利用者には付き添って対応しています。車いすの方も出来るだけ外出の支援をする等、日頃から閉塞感の無いように配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に積極的に参加し、職員のストレス等を軽減できる様にカンファレンスで話し合いの場を持つ等、虐待防止に努めている。		

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努めたり、外部から来訪されての研修なども実施している。また、必要性のある利用されている方については、地域包括支援センターと連携をとりながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず運営者・管理者が、ケアや費用などの重要事項を十分に説明し、不安や疑問などに対しては可能なことを説明、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情に対しては、苦情箱の設置にて対応しているが、殆ど苦情はないので最近の記録はない。意見等があった場合は、運営に反映させるようにして、職員や運営推進会議などでも報告するように努めている。	家族の来訪時に声をかけ意見を聞いたり、匿名でのアンケートを実施して意見を聞いています。職員の名前が分からないとの意見があり、出勤している職員の名前と顔写真を掲示したり、季節に応じた寒さ対策として窓からベッドを離して配置する等、意見を運営に活かしています。アンケートの結果は職員間で話し合い、対応を含めて家族へ報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務上で気づいた点等は、代表者・管理者が内容を把握し、改善すべき事項等は、カンファレンスを通して、意見や提案がなされ、対応に心がけている。また、それらは職員間でも情報共有が出来ている。	月1回のフロア毎の会議や、不定期の全体会議で職員から意見を聞く機会を設けており、会議に参加できない職員からは事前に意見を聞いています。日常業務の中でも連絡ノートで意見を出し合っています。職員は広報など業務の担当が分かれており、それぞれの担当からも意見を出してもらっています。個別の面談や随時の面談、職員間の親睦会等も開いて意見を聞き、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は数時間でも現場に入り、各職員の努力を見守り、把握している。各職員の勤務状況を把握し、OJTの実施などで疲労をためないように配慮をしている。年に数回、全職員の交流を図れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加が可能な研修は各職員が受講してもらうように配慮している。定期的な会議は全員出席して、研修などの報告を受けている。また、随時、勉強会を実施してケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHオリンピックや他ホームへ職員を派遣したり受け入れたりしながら、お互いの研鑽を重ねている。また、毎年、新人研修や必要とする研修・課題を明確にして様々な講習会などに参加するよう努めている。		

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族より身体状況・生活歴経過シートなどで情報を頂き、その情報にて職員は馴染みの関係になれるよう、話しをして頂けるような居場所になれる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様・ご家族の困っている事、不安に思っている事、解決のお手伝いをさせて頂く様、面会時に日常の様子を報告している。また、入居者様の困っている事、不安に思っている事は、ご家族様と問題の共有と解決への協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望されたご家族様にホーム内を見学して頂き、現在入居中の方の様子も見て頂いた上でサービス内容の説明も実施している。ご本人・ご家族様の意見・要望に沿える様に、支援方法を検討し、安心出来る環境を築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの特徴・希望などをつかんでおり、レクリエーションや買い物など個々に合った日々の生活の中でそれらを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室で大切な時間を過ごして頂いたり、行事参加等の定期的な広報誌を見て頂いて日常の様子は面会時を通じて報告をしている。また、日頃よりご家族様には感謝して頂く様声掛けも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・親戚・知人の訪問を歓迎し、居室やホールにてゆっくりくつろいで頂ける様に日頃から環境作りと維持には気を配っている。また、頻りに訪問して頂ける様に声掛けを実施し、関係の維持を支援している。	親戚や友人等の来訪があり、居室でゆっくり過ごせるように配慮しています。定期的に散歩やドライブを兼ねて昔仕事で行っていた場所に行ったり、京都南座や和菓子屋、自宅に行く等馴染みの場所へ外出しています。家族へ利用者の希望を伝えて、家族にドライブや墓参りの対応をしてもらうこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解した上で、利用者様同士が関わり、支えあえる関係が維持、継続出来る様に支援している。		

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡で退所された場合、お見舞いに行ったり、ご家族様から挨拶の葉書等が届いたりしますが、いつの間にか途絶えてしまっているが、中には5~6年と続く方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの好きな事や生活リズムを観察し、把握・理解するように努め、困難な方にはその方の立場にたった思いや希望を検討し、支援している。	入居時に利用していた事業所や、医療機関などから情報を集め、家族には基本情報シートを用いて家族構成や趣味、希望などを記入してもらっています。普段の支援の中で把握した利用者個々の希望等は、日々の記録や連絡ノートに記入して共有しています。思いを言葉に出来ない利用者の希望は、様子や表情から汲み取り、支援に活かせるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく在宅生活延長の支援を心掛け、生活歴を大切にしている。趣味や得意なことをサポートし支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は健康管理表でスタッフ全員が把握している。また、歌をうたいたい方、散歩に行きたい方、食事の手伝いをしたい方など、一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、ご本人やご家族様に要望などをお聞きし、また、月一回のカンファレンスでスタッフ全員で利用者の様子を話し合い、介護計画を作成している。	意向に添った介護計画を立て、6か月に1回の見直し基本とし、状態に変化があれば随時見直しをしています。2か月に1度、担当が他の職員にも意見を聞いた上でモニタリングし、問題が無ければ継続しています。見直し時には再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き、事前に聞いた医師や家族の意見を反映し計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケース記録でスタッフ間は常に情報共有できており、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の申し出を積極的に受け、季節の音楽会や紙芝居、人形劇等を開催して頂いたり、個別ではリハビリの先生にもサポートして頂いている。		

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の方やボランティアの方の協力を得て、一人ひとりが安全で豊かな暮らしを楽しむ工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて受診結果を家族にも報告し、本人とご家族様等の希望を大切にしながら、適切な医療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医の継続が可能ですが事業所の協力医へ変更する利用者も多く月2回協力医の往診を受け、状態に変化があれば随時の往診にも対応可能です。かかりつけ医や専門科の受診は家族が対応し結果は口頭で共有すると共に場合によっては職員が受診に同行しています。週1回は事業所の看護師が健康管理を行いアドバイスを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別往診前に看護師を通して主治医に利用者の状態を報告してもらっている。また、何らかの変化がある場合などは、看護師に相談し適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様の希望をお聞きし、診療所母体の病院へ入院することが出来る。入院中の様子も主治医を通してこちらに伝わってくるように連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様から看取りの希望があり、過去に行っている。ご家族様・施設・主治医の3者で話し合いを早い段階で行っている。また、主治医から直接、家族の方に連絡をして下さる事も多い。	これまでに看取り支援の経験があり、看取りが必要になった時には協力医の指示の下、事業所で対応できることを説明し、家族の希望や意向を再確認して話し合い体制を整えています。職員が不安なく取り組めるよう医師、看護師からケアの方法や状態の見極めなどについてアドバイスをもらい対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の様子を普段からよく観察し、急変への気づきや、事故発生防止に努めている。万が一の急変時、事故発生時にも、医師と連携し、迅速に対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得ながら年二回の消防訓練を実施している。また、災害時、スタッフがすぐに駆けつけられるように、連絡網を作成し、万全の体制を整えている。	年2回、昼夜1回ずつ想定し、内1回は消防職員の立ち合いの下で利用者も参加し、実施しています。通報や初期消火、緊急連絡網を回し確認する等の訓練を実施しています。実施の際には近隣の方へ案内し、協力や見学を得ています。地域ケア会議で避難場所について話し合ったり、食料、水等の備蓄もしています。	

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌な事はしない・言わない様にし、個人の人格を尊重し、否定するような声掛けや対応はしないように指導している。	入職時に社内で接遇、マナーについての研修を受講しています。利用者は苗字で呼び敬語での声掛けを基本に対応しています。固苦しくならないよう配慮したり、馴れ合いにならないよう気を付け、声を掛ける時の声の大きさにも注意しています。また希望があれば入浴時の同性介助にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を自己決定出来る様に心掛けながら利用者ひとり一人に声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人のペースを大切にし、その人らしい一日が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪を整え、服をコーディネートし、身だしなみやおしゃれに気を配り、「よくお似合いですね」等、本人のおしゃれへの意欲が向上するよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから片付けまで、利用者と共にやっている。食事形態も各利用者にあわせてきざみやとろみ食を提供し、食事中も会話が弾むように支援している。	業者の立てたメニューに沿って食材が届き、1週間に2回は利用者から希望を聞いてメニューを決め、利用者も一緒に買い物や調理に参加して楽しめるようなメニューを工夫しています。手作りおやつやクリスマス、おせち等の季節の料理を作ったり、花見で弁当を食べたり外食など食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、摂取できていない時は、意識して摂取して頂く様に支援している。月一回体重測定を行い、食事量が適量であるかもチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは必ず行い、介助や声掛け・見守りにて行っている。必要な方には歯科往診に来てもらっている。		

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄表をの記録を行い、その表と利用者各々のリズムを把握しながら、その時々状況に応じて対応している。	排泄チェック表を参考に利用者個々に応じて排泄の支援を行っています。退院時におむつを使用していた方が、トイレでの排泄を継続して支援することで尿意が戻り、紙パンツで過ごせるようになる等、改善した利用者もいます。排泄用品の変更などは本人とも相談しながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下を歩いたり、みんなで筋力体操をしたり、お天気の良い日は散歩をしたりしてなるべく体を動かすようにしている。水分量や食事・便秘薬も時々使用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の様子を見ながら声かけしたり、体調のすぐれない時には、日時の変更をしている。季節によって、浴室の温度や湯温設定などの工夫をしながら支援している。	入浴の準備は1日おきにし、週に2、3日を目安に14時から17時までを基本として間隔が空いている利用者から声をかけ入浴してもらっています。入浴拒否のある方は声掛けのタイミングや日を変える等工夫したり、難しい場合は家族の協力を得ることもあります。入浴剤の利用や、状態により清拭や足浴での対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子等でずっと座っている方には、昼寝をしたりして体位を変える工夫をしている。居室内の明るさにも気を配り、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストで個々の薬の内容や副作用等について把握できており、主治医からも変更点等の説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに得意なお手伝い等の役割分担を決めてもらっている。しりとり・トランプ・歌等、様々なレクリエーションを行い、スタッフと共に楽しんでいることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域における行事等、一年間を通して開催される行事に参加できるように支援している。お天気の良い日には、お散歩等上手に気分転換を図れるように工夫している。	天気が良ければ、利用者は万遍なくほぼ毎日散歩をしています。桜の花見や紅葉狩りに出掛けたり、びわ湖大橋を見に出掛けたりしています。その日の利用者の希望を聞いて、出掛けることもあり、馴染みの植物園に行く等、外出を楽しんでもらっています。	

グループホーム カスタネット(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、ご自身で財布を持って買い物に出かけ、大好きな物を買った時の喜んだ笑顔を大切に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望されたら繋ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機の運転や窓を開けるなどの換気にて室温・湿度を最適維持し、掃除の際には消毒も行い、快適に生活出来る様に、清潔を保っている。また、季節ごとの花も生けるなどもしている。	共有空間の廊下にソファを置き夕日を座って眺められるようにしたり、一人で静かに過ごせるスペースも確保し自由に利用できるようにしています。草花を配置したり、クリスマスツリーや手作りカレンダー等の季節感のある物を配置し、ロールカーテンで日差しを調整しています。リビングの椅子は利用者の相性を考慮し、座り慣れた場所となるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士が共通したリレーションができたり、リラックス出来る様にソファを置いたり、外には日光浴ができるようテーブル・椅子を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお気に入り・思い出などの品を家族様を持ってこられ、額などにて飾り付けを行い、快適に過ごせるように心掛けています。また、天気の良い日は布団を干したり、窓を開け換気をしている。	仏壇や使い慣れた家具、写真、大正琴や辞書等、好きな物を自由に持ち込んでもらっています。ベッド利用が基本ですが、カーペットを敷いて、布団の利用も可能です。入居時に利用者の自宅を訪問した際は、部屋の様子を見せてもらい居室内の配置の参考にしています。快適に過ごせるよう室温等も適宜、管理しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や押し車等が通りやすくスペースを取り、各自室やトイレには表札を付け、安全な自立支援を見守るように努めている。		